

会議結果

次の附属機関等の会議を下記のとおり開催した。

附属機関等の名称	令和6(2024)年度第1回ゼロカーボンシティ推進協議会		
開催日時	令和6(2024)年7月22日(月)午後2時から午後4時まで		
開催場所	みよし市役所6階601・602会議室		
出席者	<p>みよし市ゼロカーボンシティ推進協議会 (会長) 近藤元博 (副会長) 杉山範子 (委員) 濱林順、恒川達也、片岡明博、松尾賢作、山田哲也、井口貴視、 福田弘樹、野々山淳教</p> <p>(オブザーバー) 新原修一郎 環境省中部地方環境事務所(代理:中村宏) 長谷川大晃 経済産業省中部経済産業局 天野克則 愛知県西三河県民事務所</p> <p>(みよし市) 小山市長、深谷経営企画部長、岡田経営企画部参事、 近藤経営企画部次長、鈴木生活環境課長、三浦副主幹、 成田主任主査、塚崎産業振興課主幹、後藤主任主査</p> <p>(事務局) 水谷ゼロカーボン推進室長、福上主任主査、橋本主査、北川主事</p> <p>(受託会社) デロイトトーマツコンサルティング合同会社 西村崇宏、伊藤皆人</p>		
次回開催予定日	令和6(2024)年8月29日(木)		
問合せ先	企画政策課ゼロカーボン推進室 担当者名 福上、橋本、北川 電話番号 0561-76-5002(直通) ファックス番号 0561-76-5021 メールアドレス zerocarbon@city.aichi-miyoshi.lg.jp		
下欄に掲載するもの	<ul style="list-style-type: none"> ・ 議事録全文 ・ 議事録要約 	要約した理由	
審議経過	<内容> <ol style="list-style-type: none"> 1 開会 <ol style="list-style-type: none"> (1) 市長挨拶 (2) 委嘱状交付 (3) 会長選任及び副会長指名 (4) 諮問 (5) 会長挨拶 (6) 参加者自己紹介 2 議事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 協議会の概要等 (2) 地球温暖化に関する動向等 		

	<p>(3)本市のこれまでの取組</p> <p>(4)ゼロカーボンシティ推進計画策定方針</p> <p>(5)計画の改定内容</p> <p>(6)ディスカッション</p> <p>3 閉会</p>
--	---

<p>《会議録》</p> <p>1 開会</p> <p>水谷ゼロカーボン推進室長</p>	<p>本日は、大変お忙しい中、お集まりいただき、誠にありがとうございます。定刻となりましたので、只今から令和6年度第1回みよし市ゼロカーボンシティ推進協議会を開催いたします。</p> <p>本日の協議会は、「みよし市附属機関の設置及び運営に関する要綱」の規定に基づき、会議を公開することとしておりますので、ご承知おきください。なお、傍聴者の方は、受付時にお渡しいたしました注意事項を厳守していただきますようお願いいたします。また、ご発言をされる際には、お手元のマイクのスイッチを押していただきましてご発言をいただきますようお願いいたします。</p> <p>それでは、会議に先立ちまして、小山市長よりご挨拶を申し上げます。</p>
<p>(1)市長挨拶</p> <p>小山市長</p>	<p>ご紹介をいただきました市長の小山祐でございます。</p> <p>本日はゼロカーボンシティ推進協議会の第1回目の会議に、大変お忙しい中、皆様にご参加をいただきまして誠にありがとうございます。</p> <p>今回協議会を立ち上げましたが、昨年度まではゼロカーボンシティ推進検討会というものを行っておりました。そちらの検討会を発展させて今回の協議会を立ち上げる形となりました。協議会を通しまして、本市がこれからゼロカーボンに向けた具体的な取り組みを皆様と検討し、そして市としてもその実現に向けて取り組んでいくという、大変重要な協議会であると思っています。</p> <p>本市はこのゼロカーボンについては市の最重要課題の一つとして位置付けており、ゼロカーボンシティ宣言を行っています。基準年の2013年度比で46%以上のCO2を削減していくという大変高い目標は必達だと思っています。</p> <p>これは行政だけで成し遂げるものではなくて、それぞれ今日ご参加の皆様の各企業の皆様、そして各団体の皆様、市民の皆様の総体として、総力として成し遂げていくものだと思っています。</p> <p>そうした中で、皆様の知見経験の中から、忌憚のないご意見を出していただき、ゼロカーボンに向けた取り組みをさせていただきたいと考えております。</p> <p>私たちが取り組んでいく課題必達ということを先ほど申し上げましたが、これは必ず成し遂げていかなければ地球、この私達の地域がもたないということでもありますし、ゼロカーボンを行っていく中で、地域の産業をしっかりと興していくというところの観点もあります。</p> <p>世界中が取り組んでいる中でありますが、その中でみよし市が取り残されることなく、しっかりと生き残っていくためにもこのゼロカーボンはしっかりと取り組んでいくべき課題であると思っています。</p> <p>そうした、私たちの中で大変重要な、繰り返しになりますが、大変重要な会議であります。ぜひ皆様方のお力添えを心からお願いを申し上げまして、簡単ではありますが冒頭のご挨拶とさせていただきます。どうぞよろしく願いいたします。</p>
<p>(2)委嘱状交付</p> <p>水谷ゼロカーボン推進室長</p>	<p>続きまして、委嘱状の交付を行いたいと存じます。大変恐縮ではございますが、委嘱状は、代表者による受領とさせていただきます、代表者以外の皆様におかれ</p>

<p>小山市長</p>	<p>ましては、机上に委嘱状を交付させていただきましたので、ご了承をお願いいたします。それでは代表者として近藤元博様、中央へご移動をお願いいたします。</p> <p>委嘱状交付</p>
<p>水谷ゼロカーボン推進室長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>市長と近藤様におかれましては、ご自席にお戻りください。</p> <p>委員の皆様におかれましては、ご多忙の中大変恐縮ではございますが、在任中は、本市のゼロカーボンシティ推進に向け、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。</p> <p>続きまして、会長及び副会長の選任に移りたいと存じます。</p> <p>始めに、会長選任につきましては、「みよし市ゼロカーボンシティ推進協議会運営要綱」第4条第2項の規定に基づき、「会長は、学識経験を有する者のうちから市長が選任する。」とされていますので、市長より選任させていただきたいと存じます。</p>
<p>(3) 会長選任及び副会長指名 小山市長</p>	<p>会長につきましては、愛知工業大学総合技術研究所教授の近藤元博様をお願いしたいと存じます。</p>
<p>近藤会長</p>	<p>承知しました。</p>
<p>水谷ゼロカーボン推進室長</p>	<p>ありがとうございます。近藤様は、前の会長席の方へご移動をお願いいたします。</p> <p>続きまして、副会長の選任に移ります。副会長の選任は、協議会運営要綱第4条第3項の規定に基づき、副会長は委員のうちから会長が指名するとされておりますので、近藤会長よりご指名させていただきたいと存じます。</p>
<p>近藤会長</p>	<p>それでは副会長を選任したいと思います。副会長には杉山範子様を指名させていただきたいと存じます。いかがでしょうか。</p>
<p>杉山副会長</p>	<p>承知いたしました。よろしく申し上げます。</p>
<p>(4) 諮問 水谷ゼロカーボン推進室長</p>	<p>ありがとうございます。続きまして諮問に移りたいと存じます。小山市長と近藤会長は、中央にお越しください。</p>
<p>小山市長</p>	<p>諮問</p>
<p>水谷ゼロカーボン推進室長</p>	<p>ありがとうございました。市長及び会長におかれましては、お席にお戻りください。それではここで会長からご挨拶を頂戴したいと存じます。近藤会長、よろしく申し上げます。</p>
<p>(5) 会長挨拶 近藤会長</p>	<p>この度、みよし市ゼロカーボンシティ推進協議会の会長を務めます、愛知工業大学の総合技術研究所の近藤と申します。よろしく申し上げます。</p>

<p>(6) 参加者自己紹介 水谷ゼロカーボン推進室長</p> <p>委員及びオブザーバー</p> <p>水谷ゼロカーボン推進室長</p> <p>事務局</p>	<p>3年前から検討会の方でご一緒させていただいた方も今回から初めて参加する方もいらっしゃいますが、みよし市のカーボンニュートラルに向けて、皆様と一緒に貢献したいと思いますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。</p> <p>皆様ご存知の通り、パリ協定以降は各国、地域がカーボンニュートラルに向けて活発に動いています。一方で、今年の猛暑のように、気温上昇の抑制は思うように進んでおりません。特に今年の夏は、日本では10年に1度の猛暑と言われており、このままだとこの猛暑のレベルと頻度が上がってくると言われています。そのため、みよし市でもカーボンニュートラルは達成しなければなりません。</p> <p>国は今年からGX経済移行債が始まり、10年間で産官合わせて150兆円もの巨大な投資をしながらカーボンニュートラルを目指しています。今年の5月には水素社会推進法やCO2を回収して地中に埋めるようなCCS事業法が成立しました。国債を使ってお金を準備しながら、国としても制度を作っています。そのような国の動きを受けながら、環境省を中心にカーボンプライシングの議論も本格化しており、規制と制度、飴と鞭を使いながら日本もカーボンニュートラルに向けて本格的に動いています。</p> <p>来年の2月には、各国が国連に2035年の温室効果ガス削減目標を提出することが求められています。2030年という通過点の次に、2035年に向けて取り組むことが求められます。日本は2013年を基準年として、2030年に46%削減を目標としていますが、世界中では2019年を基準年として2035年の目標を策定しているため、日本も基準年を合わせることを求められます。日本の削減目標は今後議論される内容ではありますが、2019年比の60%から70%削減になると考えられます。今回の協議会の中では2030年を目標年としますが、国の動きを見ながら、2030年から2035年にどうつなげていくかを議論することも必要です。</p> <p>協議会の中でも皆様と情報提供や議論しながら、みよし市をゼロカーボンによって新しい産業を興していき、みよし市を良くしたいと思います。一方で、緩和問題だけではなく適応問題にも取り組むことが必要です。既に温暖化、気候変動が進んでいる世界に住んでいますので、気候変動に適応し、安全で安心なまちを作っていく必要があります。産業振興と安心安全なまちを両方成立させることで、企業からも市民からも選ばれるみよし市になると思います。皆様からは、忌憚のないご意見をいただき、答申につなげたいと思いますのでご協力お願いします。簡単ですが会長の挨拶とさせていただきます。</p> <p>ありがとうございました。続きまして、委員の皆さま及びオブザーバーで参加いただいている関係者の皆さまより、一言ずつ自己紹介を頂戴したいと存じます。近藤会長は先ほどご挨拶を頂戴しましたので、副会長の杉山様より時計回りに順番にお願いいたします。</p> <p>自己紹介</p> <p>ありがとうございました。続きまして、事務局及び市関係者の自己紹介をさせていただきます。</p> <p>自己紹介</p>
--	--

<p>水谷ゼロカーボン推進室長</p>	<p>本年も1年よろしくお願ひいたします。大変恐縮でございますが、小山市長につきましましては、この後公務がございますので、ここで退席をさせていただきます。</p> <p>これ以降の議事につきましては、協議会運営要綱第5条第1項の規定に基づき、会長が議長となりますので、近藤会長に議事の取り回しをお願いしたいと存じます</p>
<p>近藤会長</p>	<p>承知しました。議事の進行に入ります。まず、今日の会議は委員の半数以上の出席がありますので有効な会議であるということをご報告します。</p> <p>議題は次第の通り、(1) から (6) まであります。(6)はディスカッションですので、まずは事務局の方から、(1) から (5) の内容をご説明お願いいたします。</p>
<p>2 議事 (1) 協議会の概要等 福上主任主査</p>	<p>みよし市企画政策課ゼロカーボン推進室の福上です。よろしくお願ひいたします。それでは、次第に沿って、順に説明をさせていただきます。</p> <p>スライド2枚目をご覧ください。</p> <p>本日は、(1) から (5) までの項目について、詳細に書かれている内容を右の時間の配分で説明をさせていただきたいと存じます。</p> <p>その後、(6) のディスカッションの際に、事前にいただきました質問も含め、皆さまとディスカッションができればと存じます。</p> <p>スライド3枚目をご覧ください。</p> <p>最初に、「1 協議会の概要等」について、「1 協議会の概要・スケジュール・各会議の議題」及び「2 各会議の議題と計画との関連」を説明させていただきます。</p> <p>スライド4枚目をご覧ください。</p> <p>最初に、協議会の概要について説明をさせていただきます。</p> <p>これまでの変遷について説明いたします。</p> <p>本市は、2019年12月に、全国25番目の自治体として、ゼロカーボンシティ宣言を表明いたしました。</p> <p>2021年3月には、「地球温暖化対策の推進に関する法律」、いわゆる「温対法」の規定に基づく、本市の「地球温暖化対策実行計画（区域施策編・事務事業編）」を策定し、本計画に基づく施策を推進するため、本協議会の前身となる「ゼロカーボンシティ推進検討会」を設置しました。</p> <p>検討会では、有識者の方々のご意見をいただきながら、本市における再生可能エネルギー導入目標の設定をはじめとした検討を重ねてまいりました。</p> <p>そのような中、本年2024年4月に、これまでの検討会を発展的解消し、ゼロカーボンシティ推進協議会を設置しました。</p> <p>その背景として、本年度、2025年3月に「ゼロカーボンシティ推進計画」を策定することが関係しています。</p> <p>ゼロカーボンシティ推進計画では、現行の地球温暖化対策実行計画を改定し、①2050年カーボンニュートラル実現のロードマップ作成、②CO2排出量削減目標の引き上げ、③気候変動適応策を反映、を盛り込む予定です。</p> <p>スライド下の協議会の位置づけに記載させていただきましたが、本協議会の位置づけとして、ゼロカーボンシティ推進計画策定に関する市の条例で定める諮問機関として設置し、本年度から公募市民2名の方にも参加していただき、学識経験者をはじめとする関係者で構成した機関となっています。</p> <p>計画策定後には、本協議会は、計画の進捗管理に係る調査審議を担うことを想定しています。</p>

<p>(2) 地球温暖化に関する動向等 福上主任主査</p>	<p>スライド5ページ目をご覧ください。 こちらは、本年度に策定を行う、ゼロカーボンシティ推進計画の策定スケジュールを示しています。 4月から策定の準備を進めており、4月から7月にかけて、基本方針の検討を行っており、改定方針に併せて、計画の情報アップデートのための調査を行っています。 皆さまへ配布の資料は、左上が「基本方針決定」となっていますが、こちらは「基本方針検討」が正しいので、検討に修正をさせていただきます。 昨年度協議させていただきました脱炭素プラットフォームや、現在、検討を進めており、皆さまへは第3回の協議会で説明をさせていただく「水上太陽光発電事業」、そのほかの事業について、検討の結果を計画策定にインプットしていこうと考えています。 12月ごろには、計画策定に関して市民の意見を聴きとるパブリックコメントを実施し、3月には計画策定を行いたいと考えています。</p> <p>6ページ目をご覧ください。 本日の第1回協議会を含み、第3回までで個別施策、すなわち計画における章ごとのディスカッションを一旦終えて、第4回協議会において計画案をお示しさせていただき、パブリックコメントを経て、第5回協議会で計画の最終案を取りまとめたいと考えています。 なお、本日は、計画第1章及び第2章について、議論をさせていただき、第2回協議会では、主に、第4章の個別の施策として、施策④の水素関連、施策⑥の脱炭素プラットフォーム関連、施策⑦の普及啓発関連、また、本計画より盛り込む予定の気候変動適応についてお話をさせていただく予定としています。 第3回協議会では、4章におけるその他施策とともに、公共施設の脱炭素化方針もお話しできればと考えています。</p> <p>7ページ目をご覧ください。 現行の計画をベースに、ゼロカーボンシティ推進計画として改定及び追加する項目を、章ごとに表しています。 基本的には、令和3年3月の情報を現在の情報に更新させていただき、第4章に、みよし市水素利活用ビジョンとして、本市における水素利活用のビジョンを追加したいと考えています。 また、第5章においては、気候変動適応に関する章を新規に追加する予定です。</p> <p>スライド8ページ目をご覧ください。 先ほどの7ページ目のスライドに、6ページ目で説明した、今後開催する各協議会で議題として挙げる章について、開催時期を表しました。 本日は、第1回ですので、第1章及び第2章に関する更新について、この後の議題で説明をさせていただきます。</p> <p>次のスライドをご覧ください。 続いて、「2 地球温暖化に関する動向等」について、説明をさせていただきます。</p>
------------------------------------	--

ここから先は、すでにご存じの方も多いかと存じますが、本年度における協議会の第1回目でもあり、我々がなぜ、ゼロカーボンに取り組む必要があるのか、とても重要なことですので、改めて説明をさせていただきます。

化石燃料が多く使われ始める、いわゆる工業化が進められた1850年ごろと比べ、現在、すでに気温が1度上昇したことが示されています。

IPCC第6次報告書によると、このまま何も対策しない場合は、グラフのとおり、世界の気温上昇はますます進むこととなりますが、温室効果ガスの排出を削減すれば、この気温上昇は抑えられると考えられており、温室効果ガスの削減が求められています。

11 ページ目をご覧ください。

日本が排出する温室効果ガスは、エネルギー起源CO₂と呼ばれる火力発電やガスコンロ等における化石燃料の使用に伴って排出される二酸化炭素が、全体の約85%を占めています。

温室効果ガスには、二酸化炭素以外のものも含まれていますが、大部分を占める二酸化炭素の削減を行うことが、先ほどお示した気温上昇を防ぐことに大きく寄与すると考えます。

スライド12 ページ目をご覧ください。

これまで、地球温暖化の原因のひとつである温室効果ガスを減らす、すなわち、「緩和」に関する施策について主に説明を行ってきました。

温室効果ガスの排出を削減し、抑制する「緩和」に加えて、気候変動による被害を軽減する「適応」の両面から取り組むことが重要です。

気候変動の緩和を最大限実施しても避けられない気候変動の影響に対しては、その被害を軽減する気候変動適応が重要です。

13 ページ目をご覧ください。

先ほどのスライドで申し上げた「緩和」に関するポイントについて説明いたします。

皆さまに配布いたしましたスライドでは、「エネルギーを減らす」ことが2番目となっておりますが、こちらを1番目のポイントとして挙げさせていただきました。

エネルギーを減らす、すなわち省エネ化によってエネルギーの使用量を減らすことでエネルギー起源CO₂は減らすことができます。

2つ目は、「エネルギーを創る」ことです。

エネルギーを創る際に、CO₂を発生させない再生可能エネルギーを用いて発電します。

3つ目はエネルギーを置き換えることです。

燃料転換によってCO₂をあまり排出しないエネルギーに置き換えます。

4つ目は二酸化炭素を吸収/除去することです。

減らす、創る、置き換える、といった3つの取組を行っても、なお残るCO₂を削減します。

14 ページ目をご覧ください。

こちらのスライドでは、「適応」について、説明をさせていただきます。

国が定める気候変動適応計画において、気候変動によって生じる主要な7分野の影響が示されています。

<p>(3)本市のこれまでの取組 福上主任主査</p>	<p>例えば、農業・林業・水産業における水稻については、高温による品質の低下が一例として挙げられており、高温対策として、管理等の徹底を図るとともに、高温耐性品種の開発・普及を推進することなどが対策として挙げられています。</p> <p>適応においては、地域性による影響が多いことから、地域の特性をしっかりと捉えることが、適応策を検討する上で重要となってきます。</p> <p>15 ページ目をご覧ください。</p> <p>国内外では、地球温暖化を防ぐため、世界的に温室効果ガスを削減す取組が活発化しています。</p> <p>日本は温室効果ガス排出量を「2050 年までに実質ゼロ」、また、「2030 年までに 2013 年度比 46%削減、さらに 50%の高みに」、という目標を宣言しています。</p> <p>右上の枠をご覧ください。</p> <p>IPCC 第 6 次報告書では、パリ協定の 1.5℃目標を達成するためには、2035 年までに 2019 年比 60%削減することが必要であることを明示しており、温室効果ガス削減の取組を加速させることが必要となっています。</p> <p>なお、現在、国は、2035 年の削減目標を設定するといった、現行の計画について、本年度内の改定目指していると公表されているため、こちらも注視していく必要があると考えています。</p> <p>続きまして、「3 本市のこれまでの取組」について説明をいたします。</p> <p>17 ページ目をご覧ください。</p> <p>本市は、市の上位計画である「第 2 次総合計画」において、「みんなで育む笑顔輝くずっと住みたいまち」を目指しています。</p> <p>その施策のひとつとして、基本目標 5「自然環境を守り、未来へつなぐまち」として、環境分野のひとつとして、ゼロカーボンシティ推進に向けて積極的に取り組んでおり、2023 年には、首長自らが気候変動対策を市の重要施策として取り組むことを誓約する「世界首長誓約／日本」に署名しました。</p> <p>18 ページ目をご覧ください。</p> <p>みよし市は、市民や事業者を対象とした補助金について、過去から継続して実施しています。</p> <p>太陽光発電システムの補助もあり、市内で発電する太陽光発電容量は、年率約 5%ずつ増加しており、環境省の排出量カルテによると、本市において約 32MW の再エネ発電量があることとなっています。</p> <p>今後も、住宅用地球温暖化対策設備や走行時の CO2 排出量削減が期待できる次世代自動車の補助を積極的に行ってまいります。</p> <p>19 ページ目をご覧ください。</p> <p>本市の令和 3 年度時点におけ CO2 排出量は、全体で約 82 万トンであり、基準年である平成 25 年度（2013 年度）に比べ、約 23%減少しています。</p> <p>自動車関連企業が多く立地するみよし市では、CO2 排出量が最も多い部門は産業部門であり、排出量全体の約 71%を占めています。</p> <p>産業部門は、農林業や建設業などを含みますが、産業部門の排出量のうち、製造業が約 99%を占めています。</p> <p>20 ページ目をご覧ください。</p>
---------------------------------	---

<p>(4)ゼロカーボンシティ推進計画策定方針 福上主任主査</p>	<p>これまでに説明した、地球温暖化に関する動向や本市の現状を踏まえて、本市として目指す姿を検討しました。</p> <p>2022年度に開催した全2回の市民ワークショップでは、15名の中学生から高齢者までの市民に参加いただき、目指す街の姿についてディスカッションを行いました。</p> <p>「自分たちが理想とするまちの姿」に対して、ワークショップでは、「市民が意識せずとも環境と産業が両立できるまち」、「市民に負担をかけず、普段と変わらない生活を送ることで脱炭素化に貢献できるようなまち」、「近距離移動のEV化など、電化が進んだまち」などの様々な意見をいただきました。</p> <p>21 ページ目をご覧ください。</p> <p>先ほどの市民ワークショップや、これまでにいただいた様々なご意見を元に、本市が目指すまちの姿を表しました。</p> <p>本市の産業構造や人口動態などの地域特性を踏まえ、「製造業・農業などの盛んな産業と豊かな住環境が調和した環境にやさしいまち」を目指します。</p> <p>この絵には、ゼロカーボン化を目指す際の主要な主体である、行政・市民・企業・自動車が、2050年に向けて目指す姿を示しています。</p> <p>将来的には本市に留まらず、再エネの調達、二酸化炭素の吸収など他の自治体や地域と連携していくことも想定して表しました。</p> <p>22 ページ目をご覧ください。</p> <p>昨年度までに何回もお話させていただいた内容ですが、改めてお話させていただきます。</p> <p>総合計画などで示している本市の課題の解決を図り、先ほどお示しした目指す姿を実現するため、「省エネ」「再エネ」「新技術」を3つの柱とし、これら7つの施策を推進していきます。</p> <p>省エネ・再エネについては、産業・業務・家庭部門において省エネ設備の導入や太陽光発電設備の導入を推進していきます。</p> <p>新技術では、電気自動車、燃料電池自動車や水素等の新技術の活用を推進します。</p> <p>また、3つの柱のほか、普及・啓発もこれらの柱を支える重要な取組となり、本市を支える中小企業といった事業者様の脱炭素の相談窓口、また、環境教育を始めとした市民の意識醸成も行ってまいります。</p> <p>これらの施策の詳細な内容については、計画第4章で記載する予定ですので、第2回、第3回の協議会で議論をさせていただきたいと存じます。</p> <p>続きまして、「4 ゼロカーボンシティ推進計画策定方針」について、説明させていただきます。</p> <p>24 ページ目をご覧ください。</p> <p>本年度に策定を行う、ゼロカーボンシティ推進計画の策定方針について説明いたします。</p> <p>令和3年3月に策定した現行の地球温暖化対策実行計画を改定し、改定した計画をゼロカーボンシティ推進計画といたします。</p> <p>こちらの計画の策定の目的は3点ございます。</p> <p>1つ目は、2050年のゼロカーボンシティ実現のために、2030年のCO2を2013年度比46%以上の削減に向けたロードマップを策定することです。</p>
--	---

<p>(5) 計画の改定内容 福上主任主査</p>	<p>2つ目は、継続的な施策推進のための、定量的なモニタリング指標を設定することです。</p> <p>3つ目は、気候変動適応や水素利活用など、今後注力すべき分野への取組方針を提示することです。</p> <p>新旧の比較として、各章における改定方針を説明いたします。</p> <p>第1章では、計画改定の背景となる国内外の気候変動緩和・適応に向けた動向を最新版の情報に更新します。</p> <p>市全体のCO2排出状況を記載する第2章では、温室効果ガス排出状況を最新版の情報に更新します。</p> <p>事業体のひとつである市役所そのものの活動によるCO2排出状況を記載する第3章では、最新版の情報に更新するとともに、算定する対象範囲を見直したため、より詳細な情報へ更新いたします。</p> <p>25ページ目をご覧ください。</p> <p>計画の目標と施策を記載する第4章では、目指すまちの姿を更新し、実現させるための具体的なロードマップを策定します。</p> <p>また、温室効果ガス削減目標については、国内外の動向を注視しながら設定してまいります。</p> <p>また、市として今後注力する水素分野に関するビジョンを新たに策定し、特に、水素需要側としての取組を推進するといった検討を行ってまいりたいと考えています。</p> <p>第5章においては、これまでお話した「緩和」だけでなく、新たに、「適応」といった施策を取り入れるため、現行計画において記載がない気候変動適応の計画を盛り込みます。</p> <p>先ほど申し上げた主要7分野をベースに、本市の地域特性を考慮して、本市における気候変動による影響や適応策の検討、取組などについて記載を行ってまいります。</p> <p>最後に、計画の推進体制等を記載する第6章では、気候変動緩和、適応の計画見直し周期や検討体制を示します。</p> <p>また、施策進捗のモニタリング指標・モニタリング方法を設定いたします。</p> <p>続きまして、「5 計画の改定内容」について説明いたします。</p> <p>こちらにつきましては、別添、資料3及び4を御参照いただきますようお願いいたします。</p> <p>主な改定部分につきましては、黄色くハイライトで強調しています。</p> <p>それでは、まず、資料3、第1章をご覧ください。</p> <p>こちらはみよし市ゼロカーボンシティ推進計画の本文です。今回主要な改定箇所につきましては、黄色のハイライト示しています。</p> <p>表紙はみよし市ゼロカーボンシティ推進計画として、計画期間は令和7年度から令和12年度とし、後期の計画として改定しています。</p> <p>第1章 計画にあたって、2ページにハイライトがございます。現行計画では2030年の2013年度比の削減目標が26%ですが、国が現行計画策定後に削減目標を46%と引き上げ、さらに50%の高みを目指すことを宣言しているため、背景として追記しています。</p> <p>3ページ目には、令和3年に策定をした計画から、今日に至るまでに実施した内容として、令和5年6月の世界首長誓約/日本への誓約を追記しました。また、計画改定にあたって水素の利活用ビジョンを追記したいと考えていますので、現在行われている国や県の取り組みを背景に記載しています。</p>
-------------------------------	---

<p>(6)ディスカッション 近藤会長</p>	<p>そして現行の地球温暖化対策実行計画の後期計画として本計画を策定する旨を記載しています。</p> <p>4 ページ目では、「計画策定にあたっての重要な考え方」において、②に気候変動の適用という考え方を記載しています。⑥には水素アンモニアの利活用に関する、中部圏水素アンモニアサプライチェーンビジョンなどを紹介しています。</p> <p>6 ページ目では、「計画の基本的事項」で、ゼロカーボンシティ推進計画の目的として、気候変動適応を記載しています。「ゼロカーボンシティ推進計画の役割」では、計画の位置と他計画との整合性を図で表しています。</p> <p>8 ページでは、右下の図が古い情報となっていますので、最新版の IPCC 第 6 次報告書のものに修正をさせていただきます。</p> <p>9 ページでは、年表を国の新たな温室効果ガス削減目標と世界首長誓約を追加しています。</p> <p>10 ページでは、前回の現行の計画から今日に至るまでのみよし市の取り組みとして、世界首長誓約やカーボンニュートラルな都市ガスの活用を紹介しています。</p> <p>第 1 章につきましては、主要な改正は以上になりますが、細かな数字や言い回しは修正しています。</p> <p>資料 4 の第 2 章について、ご説明します。 第 2 章は、区域施策編というみよし市全体で発生をする CO2 の現状について説明する章です。 主に現行計画における情報を最新版にアップデートしています。 例えば 13 ページでは人口や農業の推移、14 ページでは商業・工業の情報をアップデートしています。 15 ページでは、温室効果ガスの排出量の推移を最新版に修正しています。</p> <p>17 ページでは、産業部門の製造品出荷額の推移と CO2 排出量の関係性を最新版に修正しています。</p> <p>20 ページでは、運輸部門に関する保有車両の推移を最新版に修正しています。</p> <p>21 ページでは、廃棄物分野の CO2 排出量を最新版に修正しています。</p> <p>23 ページ以降は、市民及び事業者意識を提示しており、2022 年に開催した市民ワークショップについて記載しています。</p> <p>第 1 章、第 2 章は、情報の更新が主な内容になっていますが、この後、ディスカッションで皆様からのご意見などをもとに、ディスカッションができればと思います。説明は以上です。</p> <p>(6) のディスカッションに移ります。第 1 章、第 2 章につきまして、皆様からご質問ありましたらお願いします。</p>
-----------------------------	---

恒川委員	<p>中部電力パワーグリッドの恒川です。水素を精製する過程におきまして、CO2発生するような作り方もあれば、再エネ由来で、CO2をあまり排出しない作り方もあるため、今回の検討におきましてその水素の生成過程における排出量というのは計算の中で考慮していくのかを、質問させていただきます。</p>
水谷ゼロカーボン推進室長	<p>ゼロカーボン推進室水谷です。本市は製造業が集積していることが特色であり、まずは水素の需要地として、需要高めていくこと目指します。</p> <p>水素に関する施策では、例えばグリーン水素といったクリーンな水素の導入促進を目指しています。また本市も加盟している中部圏水素アンモニア社会実装推進会議が実施する低炭素水素認証などの活用も検討します。短期的に取り組める普及啓発などの取組から始め、中長期的に取り組むことを本計画において、水素利活用ビジョンして整理します。</p>
オブザーバー長谷川様	<p>中部経済産業局の長谷川です。国は水素社会推進法に基づいて、この夏から始まる価格差支援、来年度から拠点整備支援において低炭素水素を普及させるために動いています。これから25年の供給義務が課される中で、国内の低炭素水素のサプライチェーンが構築されることを期待しており、低炭素水素の活用は国の動きとも符合しています。国内は低炭素水素のサプライチェーンは未整備ですが、みよし市の計画で水素の需要創出について記載することは非常に有意義であると考えます。国の取り組みと歩調を合わせながら計画策定を進めていただけたらと思います。</p>
近藤会長	<p>水素社会推進法の中では、水素だけではなく、水素キャリアであるアンモニア、e-メタン、e-フューエルも対象としています。どこまでを水素の範囲と定義するかを検討する必要があるかと考えます。e-メタンについて取り組んでいる東邦ガスの片岡委員からコメントをお願いします。</p>
片岡委員	<p>例えば資料2の22ページの「水素の利用拡大」の図の中で、カーボンニュートラルなガスが触れられており、我々もガスの側面から貢献できると考えています。例えば知多にe-メタンの実証プラントを建設していますので、e-メタンなどについての情報を提供できればと思います。</p>
近藤会長	<p>東邦ガスさんは知多、東京ガスさんは苫小牧など、都市ガス会社は低炭素水素を使ってe-メタンを製造する取り組みを始めているので、こういった動向を注視しながら取組方針を考えてはどうかと考えます。水素の利用について、トヨタ自動車の松尾委員からコメントをお願いします。</p>
松尾委員	<p>我々がカーボンニュートラル化を行う際には、極力省エネを行い、その中で電気は最終的には再エネにシフトする方針です。ガスについては、水素、e-メタン、バイオ燃料などに代替する選択肢がありますが、まだ決められていません。それぞれの技術動向を注視しながら、最適なコスト優位性、競争力あるものを選択することを需要者側は考えています。</p>
近藤会長	<p>金融機関の立場から、中小企業からの水素に関する意見についてコメントをお願いします。</p>

井口委員	水素生成の設備投資は存在しますが、水素の需要が読めないため金融機関としては投資の採算性に懸念があります。中小企業の意見もあまり集まっていませんが、今後協議会の中で情報提供できればと思います。
福田委員	公募市民の福田です。みよし市で活用される水素は、低炭素水素であるという理解でよろしいでしょうか。
水谷ゼロカーボン推進室長	低炭素水素の活用を目指す必要があると考えています。製造、運搬、利用までを一体でカーボンニュートラル化することが重要であると考えており、計画に盛り込む水素利活用ビジョンに反映させたいと考えています。
松尾委員	46%削減を達成するために、どの程度のデータ分析を行っているかを教えてください。みよし市が排出するCO2を電気由来、ガス由来のものに分解すると、それぞれどれくらいあるか。その状況により、再エネをどれだけ導入するか、水素をどれだけ持ってくればよいかなど打つべき施策が変わってくると思います。分析結果と各施策との紐づけも教えてください。
水谷ゼロカーボン推進室長	環境省の自治体排出量カルテを基に、産業分類の細分化やCO2の直接排出、間接排出などの分析を行っています。そういったデータを活用しながら、施策効果の算定や今後の施策方針を検討します。
福田委員	<p>公募市民の福田です。資料4の15ページの温室効果ガスの排出量の推移では、良好に削減できており、2030年には46%削減できるように見えます。コロナの影響も含まれているかと思いますが、施策による削減量を算定することは可能でしょうか。</p> <p>特定事業排出者と特定事業排出者以外の削減量を分解して考えてはいかがでしょうか。</p>
水谷ゼロカーボン推進室長	従来の現状の計画におきましては、個別施策ごとのCO2削減効果というものが算定をされていない状況でございます。また、施策以外の要因に関する分析の精査は困難という部分もありますので、本計画策定におきましては、可能な限り施策以外の分析も行いながら、施策ごとの削減効果を定量化してまいりたいと考えています。例えば、先ほど松尾委員がおっしゃられたように水素をこれだけ入れたらこれだけ削減できる、太陽光発電設備など再エネをこれだけ導入できたらこれだけ削減できるといったところの目標を定量化して、それに紐づけてこれだけ削減できる、結果としてトータルで2030年目標達成できる、2050年カーボンニュートラルに繋がると、そういった建付けで計画の中で位置付けてまいりたいと考えていますので、お願いいたします。
野々山委員	個別補助金の支給状況や周知方法についてお伺いします。
福上主任主査	ゼロカーボン推進室の福上です。令和5年度の実績は太陽光発電が159件で発電容量774.5kW、蓄電池が112件、ZEHが33件、FCEV・BEV・PHVの次世代自動車が98件などであり、補助額は住宅設備で約6,700万円、自動車で約1,400万円となっております。補助金の累積件数は計画にも掲載いたします。太陽光発電につきましては、令和5年度末時点で累積として2,609件、発電容量としては、11,740kW導入されています。

<p>近藤会長</p>	<p>周知の仕方については、太陽光発電などに興味がない方々を巻き込む方法について我々は苦慮しています。地球温暖化や環境問題の重要性を訴えかけるだけではなく、お得さ、楽しさなどを切り口に関心をもっていただくよう啓発することが重要だと思っています。</p> <p>SNSについて、みよし市はLINEを始めました。こういった新たな情報ツールも使って情報発信をしていきます。</p> <p>家庭用太陽光発電の話が出たので、山田委員から特に新築一戸建てのお客様の太陽光発電に関する認識についてコメントをお願いします。</p>
<p>山田委員</p>	<p>弊社のお客様が建築するほぼ100%が太陽光を載せています。お客様の方から太陽光載せたいという声上がるのは大体1、2割ぐらいです。我々の親会社であるトヨタホームからZEHの家を売るよう強く推進されていますので、現場の営業マンがお客様に訴求して、何とか選んでいただいています。住宅価格がここまで上がってくると、太陽光を追加で乗せるためのコストが賄えないことは現実あります。</p> <p>みよし市さんのZEHの補助金は他の市町村に比べてより手厚い補助金の対応をとっていただいていると考えています。</p>
<p>近藤会長</p>	<p>家庭に蓄電池を置きたい、置いた方がいいと思っているような方はいますか。</p>
<p>山田委員</p>	<p>トヨタホームでは蓄電池設置率は10%未満です。非常に高い設置率を誇っている積水ハウス、セキスイハイムはサービス対応として蓄電池を設置することで設置率を上げています。現状では導入コストの元が取れないため、現場の営業マンとしては安く見積もり出すために蓄電池を省いて提案しています。</p> <p>蓄電池の導入を自らするお客様は100人中、1人か2人程度です。</p>
<p>福田委員</p>	<p>家に太陽光パネルを載せるときに、住宅の屋根に最大限載せるお客様と自分で使う分だけ乗せるお客様ではどちらの方が多いですか。</p> <p>みよし市にとっては太陽光パネルを最大限屋根いっぱい載せることが理想的ですが、トータルのコストが上がる懸念はあります。太陽光発電は長期休みなどでは出力制限が発生する懸念もありますが、それも踏まえて、どのような状況か教えていただくと助かります。</p>
<p>山田委員</p>	<p>太陽光の積載量に関しては住宅会社側が提案する量が載っている場合はほとんどです。ZEHの補助金のスケジュールに合うお客様の場合ですと、ZEHの補助金が受けられる量の太陽光をぎりぎり載せてご提案しています。</p> <p>これは我々トヨタホームのお客様の層の状況でございまして、トヨタホーム以上の価格帯で販売している会社はほとんど同様の状況と考えます。トヨタホームよりも安い価格帯の会社の場合には太陽光の積載率は低いです。</p>
<p>濱林委員</p>	<p>足元では、蓄電池は確かにあまり普及していませんが、着実に以前と比べると、興味を持っていただいているお客様も非常に増えてきています。発電の抑制は中部でも起きていますので、蓄電への関心は強くなっています。蓄電池自体のコストを下げるための補助金を含めた支援があれば普及が進むと考えます。</p>

オブザーバー中村様	<p>事務事業編や区域施策編が自治体のゼロカーボン化の根幹になります。地域課題や国などの計画との関連性も重要な観点です。委員の皆様の意見も伺いながらしっかりしたもの作り上げていただきたいと思います。</p>
オブザーバー天野様	<p>みよし市さんは愛知県の中でも先進的に取り組んでいただいております、本日もすごく具体的な検討がされていました。施策による効果を測定し、次の施策に反映させることが大切だと感じました。今後、追加していただく適応策や水素に関する計画を愛知県の戦略に即して作成し、他の市町のモデルとなるような計画を作っていただけたらと思います。</p>
福田委員	<p>市民としては、エネルギーさえカーボンニュートラルになれば、今まで通りの生活でカーボンニュートラルの社会が達成できると感じてしまいます。</p> <p>カーボンニュートラル達成するためには、資源循環などの取り組みの方も必要だと感じております。資料4の廃棄物の分別について、燃えるごみの内訳を提示することで生ごみなどの食品ロス削減やプラスチックのリサイクルにつながると考えます。</p>
水谷ゼロカーボン推進室長	<p>廃棄物の内訳を市民に提示する必要があると思います。計画の中でコラムという形式で本市の廃棄物処理を行っている東郷美化センターの可燃ごみのごみ質分析を掲載して紹介することでリサイクルなどの廃棄物削減取り組みを推進します。</p>
杉山副会長	<p>私は、中小企業さんの取り組みをどれだけ具体的に支援していけるのかが重要だと思いました。また、気候変動の適応のリスクと脆弱性を評価した上で、具体的な施策を考えていくことが重要です。既存の施策は洗い出せるかと思うので、リスクが高い分野について今後どのような優先順位で対策するかを各部局と調整しながら推進してください。</p> <p>国の目標が今後引き上げられることを見据えて、国の目標値への数値合わせだけではなく、みよし市が実際に2050年にカーボンニュートラルを目指していくために必要な目標値を設定していただければと思います。</p> <p>太陽光発電を設置する家が新築を100%という話を聞き、心強いと思いました。非常に充実した補助金の施策も行われていますが、次のステップとして、例えば新築への太陽光パネル設置を条例化するなどのルールや制度を検討してはどうかと思いました。</p> <p>みよし市の中に太陽光発電を最大限設置し、将来的にみよし市の中で、再エネによる水素を生産するプラント建設して余剰電力を活用することも一案かと考えます。</p>
近藤会長	<p>時間がやってまいりましたが、事前にいただいた質問に対する回答を事務局からお願いします。</p>
水谷ゼロカーボン推進室長	<p>事前にいただいた質問に事務局から回答します。</p> <p>まず、片岡委員の方から資料2の22ページの7つの施策について、切り口と課題そのものが列挙されているので関連性を示すなど、工夫するとよいのではないかというようなご指摘をいただいております。統一感やわかりやすさを意識させていただいて、各施策の名称を再検討します。</p> <p>また、松尾委員の方から、本計画の目指す姿は、CO2排出量ゼロのみか、また他にねらっている姿があるのかといったご質問をいただいております。</p>

<p>近藤会長</p>	<p>本計画におきまして主な目標は、CO2 排出量実質ゼロですが、上位計画の総合計画で示されている本市が抱える課題の同時解決を図って参りたいと考えています。ゼロカーボンシティ実現と同時に市内の企業の成長や市民の暮らしを豊かにすることを目指します。</p> <p>福田委員から、資料4の計画第2章の22ページ、水力発電の割合が低く感じるがいかがかといったご指摘をいただいています。こちらは、環境省自治体排出量カルテをもとに記載しています。ここでの水力発電は、一般的な水力発電ではなくて、河川や農業用水路に設置される小水力発電を指しています。</p> <p>内容は2024年の4月時点のデータかと思いますが、計画が公表されるのは2025年なので、可能な限りアップロードしてください。</p> <p>また、日本全体の電力からは半導体産業、データセンターによって増加することが予測されています。みよし市においても電化が進んでくるとお考えですので、太陽光だけではない電力に対する取り組みを具体的に検討していただければと思います。</p> <p>水素については、2030年にパイロット事業ができる段階であり、本計画は2030年がゴールになっているので、ビジョン作成や2035年以降に向けた取り組みが重要と思っています。一方で、トランジションを考慮する必要があります。例えば、自動車では、一気にEVやFCVが導入されるのではなく、バイオフェューエルをガソリンに混ぜるE10のような取り組みが進んでいます。そのため、移行期間のガソリン車、ハイブリッド車のロードマップを作ることも一案と考えます。この計画の中で議論すべきことであるかについては検討が必要です。電力会社の排出係数、ガス会社のカーボンニュートラルガスの動向などの外部動向を加味しながら、2030年の着地を見据え、トランジションの過程として2030年度をどう過ごして2035年、2040年、2045年に繋げるかを中長期的視点も含めながら、議論していきたいと思います。各委員の方からも様々な情報を提供していただきながら計画策定を進めさせてください。</p> <p>時間も参りましたので本日の議論は、ここで終わらせていただきたいと思います。</p>
<p>3 閉会 水谷ゼロカーボン 推進室長</p>	<p>ありがとうございました。本日はご多忙の中ご出席を賜りまして誠にありがとうございました。次回の第2回みよし市ゼロカーボンシティ推進協議会につきましては、8月29日の木曜日に、Web方式にて開催をさせていただきます。資料につきましては改めてご送付をいたしますので、皆様ご予定いただきますよう、よろしく願いいたします。</p> <p>以上をもちまして、令和6年度第1回みよしゼロカーボンシティ推進協議会を終了させていただきます。本日はありがとうございました。</p>